

いばらき農業アカデミーを開催



農業研究所は5月22日に、「麦茶用六条大麦『カシマホープ』の奨励品種採用、パン用小麦『ゆめかおり』の高品質生産の取り組み」をテーマに、いばらき農業アカデミー「品目別先進技術講座」を開催しました。

生産者やJA、関係機関から約60名が参加し、試験結果をもとに研究員から話題を提供したのちに、「カシマホープ」の麦茶を試飲していただき、試験栽培ほ場に移動、「カシマホープ」の生育状況を検討しました。

(1) 室内検討

ア 麦茶用六条大麦の新奨励品種「カシマホープ」について(作物研究室)

麦茶用途として県内で栽培される六条大麦のうち約8割を占める「カシマゴール」は、オオムギ萎縮病に弱く、近年、産地において収量が低下し問題となっていました。このため、農業研究所では令和元年播種から、奨励品種決定調査において、本病に抵抗性を持つ「カシマホープ」を供試し、生育や収量、麦茶加工適性等を調査してきました。

試験の結果、「カシマホープ」は、「カシマゴール」に比べ倒伏に強く、細麦が少なく多収で、麦茶加工適性も同程度に高いことから、本年4月に県奨励品種に採用されました。今後、令和8年播種から採種までの種子生産、令和9年播種から一般栽培が始まり、麦茶用六条大麦の主力品種を「カシマホープ」に切り替えていく予定です。

イ パン用小麦「ゆめかおり」の水田転換畑における高品質安定生産技術について (水田利用研究室)

パン用小麦「ゆめかおり」は、製パン適性に優れ、実需者から生産拡大の要望がつよ

いことから、近年は適地とされる普通畑のみでなく、水田での作付面積も拡大しています。一般に、水田転換畑では、収量、タンパク質含量が低いことから、これらを克服する栽培技術の確立に取り組みました。水田転換畑における「ゆめかおり」の栽培では、基肥窒素量を6～8kg/10aとし、莖立期に窒素4kg/10a、出穂期に窒素6～8kg/10aを追肥することで、目標収量（450kg/10a）と目標タンパク（13～14%）を達成できることを紹介しました。

ウ 小麦の赤かび病防除試験について（病虫研究室）

近年、小麦赤かび病発生が多い年が続いています。赤かび病菌は、人畜に有害なデオキシニバレノール（DON）等のかび毒を産生することから、高品質な麦生産のためには、本病の徹底した防除が必要です。

農業研究所では、県内小麦主要品種における赤かび病発生程度の品種間差や、登録薬剤による防除効果試験等を実施しており、その結果を紹介しました。

（2）ほ場検討

ほ場検討では、対照品種の「カシマゴール」が倒伏しているのに対し、新奨励品種「カシマホープ」は倒伏していない状況を確認していただきました。

来訪・研修

（1）JICA研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コース

6月12日に、アフリカ諸国より、研修生11名が来訪しました。研修では、茨城県の農業の概要や、奨励品種決定調査と種子生産について講義の後、奨励品種決定調査や原原種生産ほ場を見学していただきました。

（2）JICA研修「稲作技術向上（普及員）」コース

6月18日に、アフリカ諸国より、研修生9名が来訪されました。研修では、茨城県の農業の概要や、奨励品種決定調査と種子生産、茨城県における水稻の主要な病害虫について講義ののち、奨励品種決定調査や原原種生産ほ場を見学していただきました。

両コースとも、あいにくの雨にもかかわらず、熱心に質問する姿から、意識の高さがうかがえました。研修生からは、「本日の学びを母国での品種選定や種子生産に役立てたい」といった感想が寄せられ、有意義な研修となりました。



天水稲栽培コース



稲作技術向上コース

今年度新たに取り組みが始まった試験研究課題をご紹介します

・用水管理を取り入れた水稻高温障害対策技術の確立（作物研究室）（令和8～11年度）

水稻では、近年の登熟期間の高温による玄米品質の低下が問題となっています。

1等米比率は、「コシヒカリ」等で顕著に低下しており、近年は高温耐性を持つ「にじのきらめき」等においても低下傾向にあります。高温障害の対策として、間断かんがいや夜間かんがい等の用水管理が有効ですが、これを広域的に実証したことはありませんでした。

そこで、品種及び用水管理を組み合わせた実証試験を広域で実施し、収量・品質への影響を解明することで、水稻の高温対策技術の確立を目指します。

・「常陸秋そば」の気候変動及び有機栽培に適応した高品質・安定栽培技術の確立（作物研究室）（令和8～10年度）

奨励品種「常陸秋そば」では、近年の高温による結実・登熟の遅延や、帰化アサガオ類等の雑草害により、品質・収量が低下し問題となっています。

また、有機そばを推進するため、農薬や化学肥料を使用しない栽培技術も求められています。そこで、現在の気象条件に適した播種時期を解明するとともに、有機栽培に適用可能な雑草防除技術と有機質資材を用いた施肥方法を確立します。

・水田転作抑制カボチャの品質向上技術の確立（水田利用研究室）（令和8～9年度）

近年、経営安定を目的として普通作経営体による水田転換畑での加工業務用抑制カボチャの作付が増加しつつあります。

抑制作型は8月に播種し、11月に収穫しますが、生育期の栽培管理と水稻収穫等の作業が重なるため、カボチャの栽培管理に労力がかけられず、果実の傷、腐敗や病害虫の発生等によって収量や果実品質の低下が問題となっています。

そこで、果実を保護するための省力的なうね間被覆技術や、収量性を確保しつつ小玉果を抑制する仕立て方法を確立します。また、農業用ドローンを活用した省力的な病害虫防除を検討します。

作物の生育情報はこちら

農業研究所では、水稻・麦類・大豆・かんしょ・落花生の生育情報をホームページで適宜提供しています。（<http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/sokuho/sokuho.html>）

編集・発行／茨城県農業総合センター農業研究所
〒311-4203 水戸市上国井町3402
TEL 029-239-7211(代)
FAX 029-239-7306

水田利用研究室
〒301-0816 龍ヶ崎市大徳町3974
TEL 0297-62-0206
FAX 0297-64-0667